

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-197	高等学校	外国語	英語コミュニケーション I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	CI 104-903	Revised COMET English Communication I		

## 1. 編修の基本方針

編修の基本方針として、学習者が**日常的な話題・社会的な話題**を通じて**英語に対する興味**をもち、**英語を聞く・読む・話す・書くことの楽しみを知る**と同時に、**基本的な英語の運用能力**や、**主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度**を養うことができる内容・構成となるよう留意した。

1. 題材の選択においては、学習者に親しみやすく、かつ、学習者の**知的好奇心**を満足させる内容のものを選んだ。
2. また題材内容を一方的に与えるだけでなく、学習者自身の意見を引き出したり、クラスメートに意見を聞いたりする活動を設けるなど、**4技能5領域を統合的に関連させる**ようにした。
3. 言語材料に関しては、中学校との連携を考慮して**基本事項の定着**を重視するとともに、高校初出の言語材料を**段階的に学習**することができるよう配慮した。
4. 言語活動においては、**具体的で身近な使用場面**を設定するなどして、学習者が積極的に授業に参加できるように配慮した。

上述した内容・構成によって、学習者が**多様な知識と教養**を習得して、主体的に**社会の形成に参画**し、**自他国の伝統・文化を尊重**しつつ、**国際社会の平和と発展に寄与**する態度を養うことが達成できる教科書となるように編修した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Introduction	教室で用いる基礎的な英語表現を身につける。(第1号) 相互の意見や関係性を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(第3号)	Classroom English(10-11 頁)
Lesson / Reading	①さまざまな内容の英文を読み、活動を行うことによって、幅広い知識と教養を身につける。(第1号) ②外国人の新幹線での体験を描いた題材を通じて、自国の魅力を認識するとともに、国際的な視点を養う。(第5号)	①全般 ②Lesson 1 (16-23 頁)

	<p>③海外でのおにぎりの人気に関する題材と、日本文化を紹介する活動を通じて、自国の文化に対する理解を深める。(第5号)</p> <p>④ピクトグラムに関する題材を通じて、その社会的意義を学び、福祉や公共性を重んじる態度を養う。(第3号)</p> <p>国際化とともに発展したピクトグラムの歴史について学び、国際社会に寄与する態度を養う。(第5号)</p> <p>⑤日本初のファシリテイドッグのハンドラー、森田優子氏に関する題材と、興味のある職業を述べる活動を通じて、職業への意識づけを行い、勤労を重んずる態度を養う。(第2号)</p> <p>⑥英語のなぞなぞを解くことで、楽しみながら知的好奇心と真理を追究する態度を養う。(第1号)</p> <p>⑦コンビニエンスストアの工夫と狙いに関する題材を通じて、知的好奇心を培う。(第1号)</p> <p>⑧高校の養蜂部に関する題材と学校紹介の活動を通じて、幅広い分野での探究心を培う。(第1号)</p> <p>養蜂部の生徒の日記を通して、その活動や思いに触れ、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養う。(第4号)</p> <p>⑨スマート農業に関する題材やテクノロジーを紹介する活動を通じて、職業や生活とのかかわりを意識する。(第2号)</p> <p>⑩衣料廃棄の問題に関する題材や、衣料廃棄を減らす取り組みを述べる活動を通じて、公共の精神に基づき主体的に社会の発展に寄与する態度を養う。(第3号)</p> <p>⑪独学で風力発電装置を作ったウィリアム・カムクワンバ氏に関する題材を通じて、幅広い知識や真理を探究する態度を養う。(第1号)</p> <p>ウィリアム・カムクワンバ氏の活動を通じて、創造性やチャレンジ精神を学ぶ。(第2号)</p> <p>地域貢献について述べる活動を通じて、ボランティア精神や主体的な社会参画の態度を養う。(第3号)</p> <p>⑫日本初のファシリテイドッグ、ベイリーの物語を読み、豊かな情操を培う。(第1号)</p> <p>ベイリーと小児患者のふれあいを通じて、動物愛護の精神や生命を尊重する態度を養う。(第4号)</p>	<p>③Lesson 3 (34-41 頁)</p> <p>④Lesson 4 (42-51 頁)</p> <p>⑤Lesson 5 (52-61 頁)</p> <p>⑥Reading 1 (62-65 頁)</p> <p>⑦Lesson 6 (68-77 頁)</p> <p>⑧Lesson 7 (78-87 頁)</p> <p>⑨Lesson 8 (88-97 頁)</p> <p>⑩Lesson 9 (100-111 頁)</p> <p>⑪Lesson 10 (112-123 頁)</p> <p>⑫Reading 2 (126-133 頁)</p>
Activity	好きな英語のフレーズを入れたクラス T シャツを作成する活動により、創造性や個人の価値観を尊重する態度を養う。(第2号)	Activity 2 (66-67 頁)
コラム	英語を学習するうえでの基本的な知識を身につける。(第1号)	接続詞、英語の句読法、数の表し方 (138-139 頁)

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### I. 教科書の特色

##### A. 授業が進めやすく、学習しやすい見開き構成

左ページに本文、右ページに本文に関する活動を配しました。学習内容が一目でわかる構成で、学習意欲を喚起し、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させるのに役立ちます。

##### B. 学習者が身近に感じ、自信をもてる題材

学習者の目線で、「自分もやればできる」と自信をもてるような題材を揃えることで、学習者の個性の確立や、社会についての広く深い理解や、社会の発展に寄与する態度の育成を助長します。

##### C. 生徒の活躍を引き出す豊富な活動

取り組みやすい活動や明確な評価ポイントを豊富に提示し、生徒の「できた」という達成感を向上心につなげられます。

#### II. 各課の構成

レッスンの目標達成に向かって各活動がリンクしており、各活動を通じてトピックの理解を深めることができます。

##### 導入

**GOAL** : 各レッスンで達成すべき目標を確認

**Warm Up** : ピクチャー・ディクショナリーで、**GOAL**達成の活動に使える語彙を補強

##### 本文

本文を読み、レッスンのトピックに関する知識を身につける

##### 課末①

**Hints for Understanding** : 本文理解に必要な文法を確認

**CHECK** : 学んだ文法事項を使う練習を通して、理解を深める活動

**TRY** : 学んだ文法事項を用いて、自分のことをクラスメートに伝える活動

**Get More Information** : トピック関連のリスニング活動で**GOAL**達成の活動をイメージする

##### 課末②

**GOAL Activity** : レッソンの**GOAL**を達成する、英語でのコミュニケーション活動

#### III. その他

A. 題材は、スピーチ・発表(Lesson 4, 6)、新聞(Lesson 3, 9)、日記(Lesson 7)など、目的・場面・状況に応じた多様な形式のものとなりました。

B. 巻頭のGet Ready!では、高校の英語学習の準備として、中学で学習した文法事項の基礎を確認できます。

C. 差し込みのActivityでは、4技能5領域を統合的に用いて、学習者が楽しみながらコミュニケーションへの関心・意欲を育てられる活動を用意しました。

D. 巻末Word Listでは、本書で扱った語の品詞や名詞の可算・不可算、動詞の活用、形容詞の比較変化などを載せて利便性を高めるとともに、語彙への関心を高めるよう配慮しました。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-197	高等学校	外国語	英語コミュニケーション I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	CI 104-903	Revised COMET English Communication I		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### I. 全般的な留意点

- A. 学習指導要領との対応が明確で、紙面から授業展開がイメージできるように配慮した。
- B. 情報や考えなどを的確に理解できるよう、本文各パートの **Comprehension** では多様な形式で本文の内容把握ができるよう工夫した。また、**How About You?** などの活動を設けて、内容の理解に留まらず、そこから適切に表現したり伝えあったりする活動につながるような構成とした。
- C. 各課本文や **Hints for Understanding / Hints for Understanding Plus** の TRY では、目的や場面、状況などを明確に示し、それらに応じて適切なコミュニケーションが図れるよう配慮した。
- D. 各課導入の **Warm Up** や巻末の **TOOL BOX Plus** を用いて、コミュニケーションに必要な語彙力を養成するよう工夫した。
- E. 題材はバラエティに富んだ、生徒に身近なものを選定した。

### II. 教科書の構成

#### A. 本課: 導入

##### 1. 左ページ(扉)

- ① 生徒の興味を引き、題材への興味を喚起する写真。
- ② **GOAL**: そのレッスンの到達目標
- ③ 関連するレッスンでは**SDGs(持続可能な開発目標)のアイコン**を掲載

##### 2. 右ページ

- ① 右上に**4技能5領域の観点からの目標(CAN-DO)**を掲載
- ② **Warm Up**: トピックに関連した語彙のピクチャー・ディクショナリー
- ③ **Say It!**: **Warm Up**で学んだ語句を英文の中で使用して確認

#### B. 本課: 本文

##### 1. 左ページ: 本文

- ① 側注に新出語、脚注に固有名詞・イディオム・語句の読み方などを掲載
- ② **二次元コード**を用いて、**本文・新出語**のリスニングや音読・発音練習、**本文を読む速さの確認**が可能

##### 2. 右ページ: 本文理解に必要な活動

- ① **Points to Check**: 代名詞の指すものや注意すべき語句の意味などを確認
- ② **Comprehension**: 本文内容の把握問題
- ③ **How About You? など**: 本文内容に関連した自己表現活動

## C. 本課: 課末①

## 1. 左ページ

- ① **Hints for Understanding** : 本文理解に必要な文法を確認
- ② **CHECK** : 学んだ文法事項を使う練習を通して, 理解を深める
- ③ **TRY** : 学んだ文法事項を用いて, 自分のことをクラスメートに伝える活動

## 2. 右ページ

**Get More Information** : トピック関連のリスニング活動で **GOAL** 達成の活動をイメージ

## D. 本課: 課末②

- 1. **GOAL Activity** : レッソンの **GOAL** を達成するコミュニケーション活動
- 2. **Check the Performance!** : **GOAL Activity** に関する評価基準を提示

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
・Activity 1, 3	<内容> (1)-ア 音声 (ア)~(ウ)	・32-33頁, 98-99頁	別表
・英語の句読法	(1)-イ 句読法 (ア)~(ウ)	・138頁	
・各レッスンの本文, 脚注	(1)-ウ 語, 連語及び慣用表現 (ア)~(ウ)	・18頁, 26頁など	
・各レッスンのHints for Understanding ・文と文をつなぐ語(接続詞) ・Lesson 5,6の脚注 ・Hints for Understanding Plus	(1)-エ 文構造及び文法事項 (ア) (イ) a~h	・20頁など ・138頁 ・54頁, 70頁 ・134-137頁	
・各レッスンのComprehension ・各レッスンのGet More Information	(2)-ア	・19頁など ・21頁など	
・各レッスンのHow About You? / What Do You Think?	(2)-イ	・19頁など	
・各レッスンのGOAL Activity ・Activity 4	(2)-ウ	・22-23頁など ・124-125頁	
・Lesson 1~7のGet More Information	(3)-①-イ 聞くこと-(ア)	・21頁など	
・Lesson 8~10のGet More Information	(3)-①-イ 聞くこと-(イ)	・95頁, 109頁, 121頁	
・Lesson 6 の GOAL Activity Step 1	(3)-①-ウ 読むこと-(ア)	・76頁	
・Lesson 8~10 の Comprehension	(3)-①-ウ 読むこと-(イ)	・91頁など	
・Lesson 1~7 の How About You? / What Do You Think? ・Lesson 1~7 の GOAL Activity Step4	(3)-①-エ 話すこと[やり取り]- (ア)	・19頁など ・23頁など	
・Lesson 8 の What Do You Think?	(3)-①-エ 話すこと[やり取り]- (イ)	・93頁	
・Lesson 2, 5, 6 の GOAL Activity	(3)-①-オ 話すこと[発表]-(ア)	・30-31頁など	
・Lesson 8, 9, 10 の GOAL Activity	(3)-①-オ 話すこと[発表]-(イ)	・96-97頁など	
・Lesson 2, 5, 6, 7 の GOAL Activity	(3)-①-カ 書くこと-(ア)	・30-31頁など	

<ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson 8, 9, 10 の GOAL Activity</li> <li>Activity 4</li> </ul>	(3)-①-カ 書くこと-(イ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>96-97頁など</li> <li>124-125頁</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Introduction 2</li> <li>Lesson 3 の本文</li> <li>Lesson 3 の Get More Information</li> <li>Lesson 8 の本文</li> <li>Lesson 9 の本文</li> <li>Reading 2 Let's Do It!</li> </ul>	(3)-②-ア 言語の使用場面の例-(ア)~(ウ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>10-11頁</li> <li>36頁</li> <li>39頁</li> <li>90頁, 92頁</li> <li>102頁, 104頁, 106頁</li> <li>133頁</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各レッスンの Get More Information</li> <li>各レッスンの GOAL Activity Step 3, 4</li> <li>Hints for Understanding 及び Hints for Understanding Plus の TRY</li> </ul>	(3)-②-イ 言語の働きの例-(ア)~(オ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>21頁など</li> <li>23頁など</li> <li>20頁など, 134-137頁</li> </ul>
Activity 1~4	<内容の取扱い> (1)	32-33頁, 66-67頁, 98-99頁, 124-125頁
Get Ready!	(2)	12-15頁

## &lt;別表&gt;

単元	題材	言語材料	配当時数
Introduction			1
Get Ready!		be 動詞／一般動詞／否定文／疑問文	4
L.1 From the Window of the Shinkansen	文化・異文化理解	過去形	5
L.2 Miniature Art: The World of Tanaka Tatsuya	芸術	進行形	5
Activity 1 Pronounce It!			1
L.3 Onigiri Goes Overseas	文化・異文化理解	助動詞	5
L.4 Pictograms	生活・社会	不定詞	6
L.5 Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler	人物・職業	動名詞	6
R.1 Let's Try Riddles!			2
Activity 2 T-shirts for Our Class!			2
L.6 Convenience Stores: Keys to Their Success	生活・社会	that 節	6
L.7 High School Beekeepers	教育・生物	現在完了形	6
L.8 Smart Farming	科学技術・産業	受け身	6
Activity 3 Express It!			1
L.9 Fashion Waste	社会・経済	比較	7
L.10 William and His Windmill	人物・社会・福祉	関係代名詞	7
Activity 4 Write a Paragraph in English!			2

R.2 Bailey The First Hospital Facility Dog in Japan	動物・医療		4
Hints for Understanding Plus		形式主語 It／現在完了進行形／仮定法過去／関係副詞／知覚動詞／過去完了形／過去完了進行形	2
文と文をつなぐ語 英語の句読法 数の表し方		接続詞	1
			計 79